

# 令和6年度事業報告

## I. 事業概要

滋賀県は、琵琶湖をほぼ唯一の水系として森・川・里・湖がつながり、豊かで美しい自然に満たされている。県土のおよそ2分の1を占める森林は、人工林、天然林が相まって四季折々の景観を形成しているだけでなく、生命の源である清らかな水を養い、県土を保全して、人間をはじめ多くの生き物の命を支えている。

こうしたことを背景に滋賀県では、琵琶湖森林づくり条例に基づく「琵琶湖森林づくり基本計画（第2期）」が策定され、この計画に沿って、多面的機能の持続的発揮に向けた森林づくりや「やまの健康」を目指した多様な主体との協働による森林・林業・農山村づくりとともに、森林資源の循環利用による林業の成長産業化や豊かな森林を未来に引き継ぐ人づくりが推進されている。併せて、令和4年に開催された第72回全国植樹祭のレガシーとして、緑化活動に取り組む団体と連携し県民の緑化意識の高揚を図りたいとしている。

一方、国においては、「森林經營管理法」に基づき、林業の成長産業化と森林資源の適切な管理の両立に向けた森林經營管理制度を運用し、併せて、森林環境譲与税による市町村を中心とした新たな森林整備に取り組むこととしている。

こうした中、本会は、今後も公益財団法人としての自主・自立的經營と円滑な組織・事業運営を確保するとともに、「緑の募金」による財源をもとに、県民・企業・団体等の理解と協力を得ながら、緑の募金の一層の普及・啓発と安定的な収入による緑化事業の充実を図ることとしている。

令和6年度は、第4期目となる「中期經營計画」（令和6年度～令和10年度）の初年度であり、3つの經營方針に沿って「緑の募金」と森・緑づくりの取組を推進した。經營ビジョンとした「未来へつなげる琵琶湖を育む豊かな森林・緑づくり～持続可能な緑あふれる暮らしを地域協働で守り育てる～」の実現を通じて、SDGs（持続可能な開発目標）やMLGs（マザーレイクゴールズ）が掲げる目標への貢献に努めた。

具体的には、感染症拡大防止に配慮しながら、次の6点を取組の枠組みとして事業を展開した。

- (1) 「緑の募金」の趣旨とともに、森・緑づくりの大切さを啓発し、県民の緑化意識の高揚に努めること
- (2) 県民等による森づくりや学習としての学校林づくり及び森林ボランティア等による協働の森づくりの取組など、身近な森づくりを支援すること
- (3) 県民等により行われる学校、公園等の公共施設を中心とした植樹活動など身近な緑づくりを支援するとともに、安全・安心な緑の空間づくりを検討すること
- (4) 緑の少年団等の育成を図り、次代を担う青少年による森・緑づくり、環境活動等を推進し、併せて、里山保全や地域の緑化等の取組を進める団体の活動や人材育成を支援すること
- (5) 森・緑づくりは、地球的視野に立った取り組みが必要であることから、国際的な緑化活動に努めること
- (6) 公益目的事業を行う公益財団法人として、適切な事業内容により組織運営を行うとともに、ホームページやSNS等を利用した情報公開・発信に努めること

## II 全体事業実績

### 1. 森林・緑づくりの普及・啓発



#### (1) 緑の募金運動

##### 1) 募金活動期間

春期 令和6年4月1日から令和6年 5月31日まで

秋期 令和6年9月1日から令和6年10月31日まで

##### 2) 募金の方法

###### ① 募金運動の推進

市町緑化推進委員会、緑化推進会各地区担当、各種団体、企業などの協力により、感染症拡大防止に配慮しながら、家庭募金、街頭募金、職場募金、企業募金、学校募金および篤志募金を進め、企業および職場等への募金箱の設置、企業に募金協力を呼びかけるダイレクトメールの送付等による募金活動を展開した。

###### ② 広報活動

緑の募金ポスター1,450枚、募金チラシ126,500枚（春募金108,000枚、秋募金18,500枚）、第24回「森林・緑と水といのち」写真コンクール募集ポスター700枚、チラシ10,400枚および「緑の募金・緑化推進」標語コンクール募集ポスター570枚、チラシ7,000枚等を市町および関係者の協力によって、自治会、各家庭、各種イベント会場や街頭募金等において掲出または配布し、広く緑の募金の啓発を行った。

また、春の啓発期間の開始に当たっては、新聞広告や大津市内のバス路線の一部（3台）において車外後部看板の掲出を実施し、緑の募金の啓発に努めたほか、前年度に引き続き県域のテレビ、ラジオ等電波媒体による広報活動を実施した。

#### ※イベントでの緑の募金および広報啓発活動(主催:滋賀県、企業)

- ・ 6/9 地球市民の森の集い（守山市・びわこ地球市民の森）…雨天中止
- ・ 10/5 森づくり交流会「水源の森オータムフェスタ」2024（野洲市・近江富士花緑公園）
- ・ 10/26 イオン環境財団 植樹の集い（甲賀市・滋賀県油日分場）

##### 3) 募金実績

・募金目標額	50,000,000円
・募金実績額	39,061,104円
(内訳)	
家庭募金	29,240,064円
街頭募金	431,567円
職場募金	1,019,665円
企業募金	6,538,444円
学校募金	248,434円
篤志募金	1,582,930円

#### (2) コンクール等の実施

第24回「森林・緑と水といのち」写真コンクールおよび「緑の募金・緑化推進」標語コンクールを実施するとともに、全国育樹活動コンクール、全日本学校関係緑化コンクール、国土緑化運動・育樹運動ポスター原画募集等への参加を促した。

## 1) 第23回「森林・緑と水といのち」写真コンクール入賞作品の展示

緑の募金啓発活動の一環として、令和5年度に行ったこのコンクールの入賞作品35点を5月8日から6月6日まで県庁4階の渡り廊下ギャラリーで、6月12日から10月22日まで(株)平和堂の協力により県内各店で巡回展示し、緑の募金と緑化推進の啓発に努めた。

6月12日～ 7月 2日 平和堂あどがわ店 (高島管内)  
7月 2日～ 7月25日 アル・プラザ長浜 (湖北管内)  
7月25日～ 8月27日 ビバシティ平和堂 (中部・湖東管内)  
8月27日～ 9月 9日 アル・プラザ近江八幡 (中部・東近江管内)  
9月 9日～10月 1日 アル・プラザ野洲 (西部・南部管内)  
10月 1日～10月22日 アル・プラザ草津 (西部・南部管内)

## ※2) 第24回「森林・緑と水といのち」写真コンクール

このコンクールには170点の作品が寄せられ、審査の結果、特選(知事賞)をはじめ、金賞(県教育長賞)、銀賞(緑化推進会理事長賞)、特別賞(平和堂社長賞)など36点、29名の方が受賞された。

※ 上記2)は平和堂事業

## 3) 「緑の募金・緑化推進」標語コンクール

緑の募金の趣旨や緑化推進の大切さを県民の皆さんにご理解いただき、啓発を図るため実施したこのコンクールには、207点の作品が寄せられ、審査の結果、最優秀賞(知事賞)、優秀賞(県教育長賞、緑化推進会理事長賞)、努力賞(県森林組合連合会長賞、県林業協会長賞、県木材協会長賞)など、10点の入賞作品が選ばれた。また、そのうち優秀作品6点を(公社)国土緑化推進機構のコンクールに応募出品した(うち1点・一般の方が特選を受賞し、育樹運動標語に選ばれた)。

## 4) 国土緑化運動・育樹運動ポスター原画募集

国土緑化運動・育樹運動ポスター原画を募集したところ、11点(小学生8点、中学生3点)の応募があった。そのうち優秀作品9点を(公社)国土緑化推進機構のコンクールに応募出品した(受賞はなし)。

## 5) 啓発誌の発行

- ① 緑化推進会 湖国「緑の募金」(第41号) (3,200部)
- ② 緑の少年団「びわ湖緑の少年団」(第27号) (7,400部)



## 2. 身近な森づくりへの支援

琵琶湖を取り巻く森林を健全に育成し水源涵養や生物多様性機能を高めたり、森林・林業への理解促進と参画意識の啓発を目的として、里山などにおける身近な森づくり活動を支援した。また、支援を受けた団体においては、積極的に「緑の募金」活動に取り組んでいただいた。

## 1) ふれあいの森づくり事業

県民自らが森づくりに対する理解を深めるとともに、語らいや休養の場をつくるため、栗東市ほか4市町(7箇所)で、クロモジ、アカマツ等の植栽とともに、枯損木の伐採や歩道づくり等の森林整備を支援した。

## 2) 学校林づくり事業

青少年の森づくりや緑への関心、理解を深めるため、大津市3校、湖南市1校、長浜市3校の7校において、学校林等での苗木の植栽や下草刈り、間伐、歩道整備、枯損木の伐採などの取組を支援した。

## 3) 協働の森づくり事業

森林ボランティア等が広く県民に呼びかけて行う協働の森づくり事業として、3団体の活動に助成した。



## 3. 安全・安心なまちの緑づくりへの支援

学校、公園等の公共施設を中心とする身近な緑づくりの活動を支援することで、まちの緑づくりを推進した。また、自治会や団体等が植栽後の樹木等を適切に管理することによって、安全・安心な緑の空間づくりを行う方策についても検討した。

### 1) 生活環境の緑づくり事業

生活環境をより潤いのあるものにするため、緑化苗木4,565本を配布し、269箇所の公園や自治会広場および小学校等の公共施設において、県民の協力により植栽を行うことで地域の生活環境の緑化を図った。

### 2) 緑のまちづくり事業

公共施設等において、緑化啓発および記念行事等として行われる植樹で、緑化の啓発効果が著しく期待できるものに対して緑化苗木（52本）を交付する事業であり、本年度は7カ所で実施した。

### 3) 淡海の巨木・名木次世代継承事業

人々の心の支えやまちの顔あるいは地域の誇りとなっている樹木に必要な手当をすることにより、生き生きとした樹木として次世代へ継承していくことを目的として、県内2カ所（米原市清滝の道脇桜、長浜市木之本町黒田のアカガシ）の巨木・名木に樹勢回復の事業費を助成するとともに、米原市清滝の清瀧寺徳源院で「巨木・名木治療研修会」を実施した。

### ※4) 桜の並木・森の造成等

県民の安らぎと憩いの場をつくり、国の花「さくら」に多くの県民が一層親しめるよう、ソメイヨシノや神代アケボノ及びヤマザクラの苗木を、公益財団法人関西みらい銀行緑と水の基金から300本、琵琶湖汽船株式会社から30本、計330本の寄贈を受けて、県下9市町の12箇所の地域広場、公園等の公共施設等に配布し、環境緑化を図った。

### ※5) 学校、福祉施設等の環境緑化の推進

公益財団法人関西みらい銀行緑と水の基金からキリシマツツジの苗木105本の寄贈を受けて、県内の学校、福祉施設等に配布し、環境緑化を図った。

### ※6) 平和の緑づくり事業

株式会社平和堂の有料レジ袋収益金の寄付を受けて、県内の認定こども園1施設にシンボルツリーとして緑化樹木（県の木：モミジ）を配布するとともに、緑化樹木周辺にクロマツ、サルスベリ、クヌギ等を植栽した。また木育玩具も寄贈した。

## ※7) ゴルファーの緑化促進事業

公益社団法人ゴルフ緑化促進会からの緑化協力金により、滋賀県立陶芸の森にケヤキおよび神代アケボノを7本を植樹したほか、ローズゴルフクラブにおいてマツクイムシ防除のためマツ5本に樹幹注入を行った。

## ※8) 学校環境緑化モデル事業（国土緑化推進機構の事業を活用）

学校環境の緑化を通じて青少年の環境教育の推進を図るため、公益社団法人国土緑化推進機構が「ローソン緑の募金」の協力を得て実施する学校環境緑化モデル事業として、2校（小学校1、中学校1）が採択され、交付金の助成決定を受けた。

※ 上記4) 5) はともに現物苗木受領のため本会経理は未計上、  
6) は平和堂事業、7) 8) は緑化一般事業



## 4. 次代のリーダー等の育成

森づくりや環境学習を通じて、緑化意識を高めることに自主的・積極的に取り組む団体の活動に支援を行った。また、支援を受けた団体においては、積極的に「緑の募金」活動に取り組んでいただいた。

### 1) 緑の少年団等の育成および交流会の実施等支援

#### ① 緑の少年団の育成支援

緑と親しみ、愛し、守り育てる活動を通じて、ふるさとと人を愛する心豊かな人間に育っていくことを目的とする「緑の少年団」を育成するため、50団に対して活動装備の整備や活動費の助成を行った。また、1つの地域団および2つの学校団（中学校1、小中学校1）で新規団の結成を支援した。

#### ② 緑の少年団サポート事業

県内の緑の少年団の適正かつ効果的な活動を推進するため、「緑の少年団サポート」である滋賀森林インストラクター会により、少年団指導員を対象とした研修を行った。

##### a. 指導者集団指導

県内8箇所で、室内・屋外研修（森林機能と私たちの暮らしとの関係ほか）を実施。受講者：65人（49団）

##### b. 個別指導

個別指導希望団（4団）に対して、個別指導を行った。

#### ③ 緑の少年団地区交流会の開催

緑の少年団の育成・交流を図るため、県内5地区（うち2地区が合同で実施）で交流会を開催し、団員の交流を図った。

#### ④ 緑の少年団活動発表交流会の開催

令和7年3月1日（土）に、みさき自然公園（守山市）において、県内緑の少年団5団（42人）が参加し、滋賀森林インストラクター会の指導による自然観察や1年間の活動発表のほか、ネイチャークラフトに挑戦した。

## ⑤ 機関誌「びわ湖緑の少年団」第27号の発行

本年は、緑の少年団サポート事業や県内初の中学校団の結成の状況、滋賀県・中国湖南省友好提携40周年記念植樹の模様、県域での「活動交流会(休暇村 近江八幡)」や各地区での交流の様子、各団の活動状況などを掲載した機関誌「びわ湖緑の少年団」第27号を7,400部発行し、団員全員および関係者に配布した。

## 2) 緑の幼年団育成強化事業

次の活動団体を支援し、育成に努めた。

実施主体：くさつ緑の幼年団（NPO子どもネットワークセンター天気村）

内 容：学齢前の子どもやその保護者を対象に、身近な自然の中での「遊び」や他者との交流活動を通して、自然の魅力や面白さを体験する活動に対して助成した。

## 3) 森林・緑化活動団体助成

地域において緑化等の活動を行っている次の団体に対し、活動費の助成を行った。

### ① 日本ボーアイスカウト滋賀連盟の活動支援

街頭での緑の募金および同連盟のキャンプ場における植樹活動に対して助成した。

### ② 里山保全活動団体への支援

県内の里山保全活動が促進されるよう、里山の保全・整備の活動を継続的に行っている9団体の活動に対して助成を行った。

## 4) 企業等の緑化研修会の実施（緑化推進団体等担当者研修会）

事業所等における緑地の造成から維持管理について、現場での実例を交えながら学ぶ研修会を行った。

開催日：令和6年10月28日（月）

場所：(株)ダイフク滋賀事業所（日野町）

参加者：工場・事業所緑化担当者、市町緑化推進委員会職員等38人

内容：樹木医中西肇氏から緑化と樹木管理の方法について講義・指導を受けたほか、(株)ダイフクの生物多様性保全の取組について現地を見学した。

## 5. 国際的な緑化活動の実施

本県と関係が深い国との森・緑づくりに関する親善交流イベントや植樹活動などを実施する団体は特になく、実施しなかった。

## 6. 情報公開の一層の推進および効果的な公益財団活動の研究

当会ホームページやフェイスブックの新着情報コーナーにより、随時活動報告をして、広く情報提供を行った。また、ラジオ等様々な広報媒体を積極的に活用して情報公開の一層の推進により、緑の募金の認知度を高めた。

効果的な公益財団活動の研究については、近畿7府県で構成する近畿地区緑化推進協議会に参画するとともに、全国緑化推進委員会連絡協議会総会等で情報収集を行った。